

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・IK	写真・GT
山行番	NO. 1919 (個人山行)		
日時	2021/5/15 (土) 晴・高温・風なし・霧なし		
山域	富士山 (九合五勺・3550m・山岳スキー)		
コース	長泉・米納里 5:00ー富士宮・五合目発 6:46ー八合目 10:16ー九合目 11:15ー九合五勺 12:15～滑降開始 12:58ー滑降終了 (六合五勺) 14:10ー一五合駐車場 14:40ー御胎内温泉ー長泉・反省会		
標高差	上り 五合駐車場約2370m～九合五勺約3550m＝約1180m 下り //		
快適度	5 (5段階評価)	難易度	非常に困難 レ困難 普通 やや易しい 易しい
<h2>長く痛い登りと、一瞬の快樂の下り</h2>			
参加者	後藤、加藤、井上＝3名		

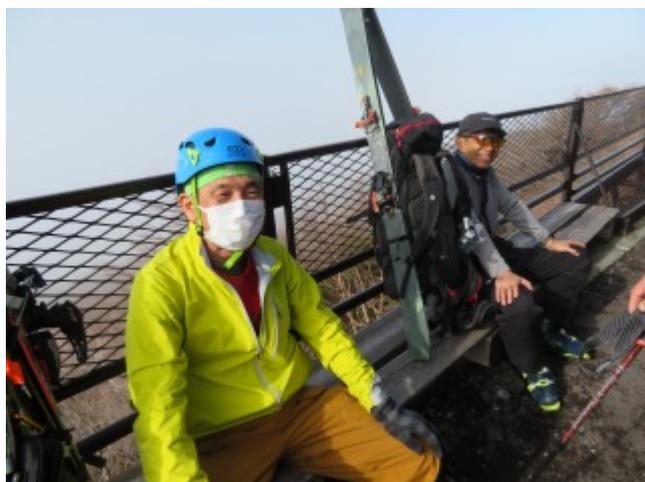
スキーか登山かは現地で決める。準備は両方することと連絡があり、靴もアイゼンも2セット、ピッケル、ストック、ヘルメット、雪山用のゴーグル、サングラス、帽子、ネックウォーマ、手袋



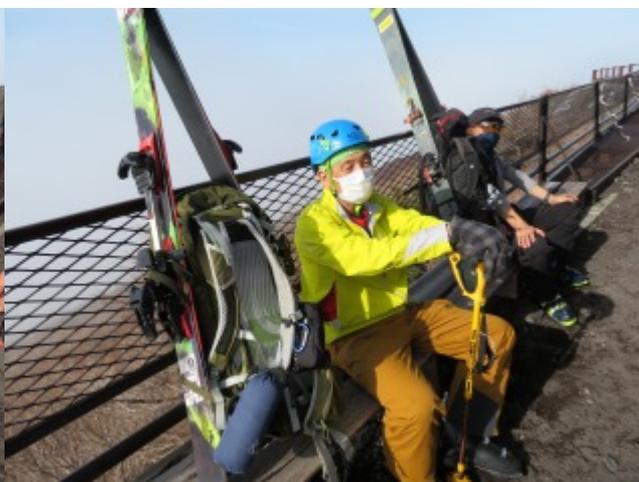
五合目駐車場



新六合・雲海荘



八王子の方々



3種、もろもろですごい荷物となった。

5:00 竹沢種苗店で後藤さんの車に乗る。加藤さんとは水ヶ塚で合流の予定。加藤さんは、水ヶ塚で前日車中泊。加藤さんに少し遅れそうだと電話をかけたら、寒いので先に五合目に行くとのこと。時折頂上が見えるが、今日は曇りの予報。五合目より上は晴れていることを望む。

五合目についてみると、頂上が見える。駐車場はそこそこ空いている。奥のブル道から登るので一番奥に車を停めた。「好天・高温・風がない・霧がない」の「4K」のスキーの条件を満たし、スキーをかついで登ることになった。

できるだけ軽量にするために、クトー（スキーアイゼン）、スキーのシール、ピッケルも持っていないことにした。ヘルメットはかぶった。

6:46 出発。雪なき道をスキーブーツで登る。スキーブーツの中の足が痛い。新六合の小屋でスキーのおじさんが2人休憩していた。八王子からとのこと。しかし休憩には早すぎないか？高齢に見えたので年齢を聞くとなんと63歳と60歳と以外と若く、後藤さんの歳をいうとびっくりしていた。ここでは、加藤さんの歳は言わなかった。63歳の方が頂上火口を滑りたいとのことと60歳が連れまわされているらしい。60歳は63歳のことを、この人変態なんですと言っていた。みんなクレイジーかも。



六合小屋

そこからは、外国人が次々と抜いていった。細い人もいるが、見るからに米軍キャンプから来ているようなマッチョな容姿の人が多く。半袖や半ズボンの人がいたが、一人はなんと上半身裸で登ってきた。後藤さんが「Crazy！（クレイジーだ）」というと、「Sometime crazy（時々、クレイジーです）」と返してきた。

富士山にスキーをかついで登っているのも、彼らから見れば私たちは十分クレイジーかもしれない。その後、日本語ペラペラの外国人が多数追いつき抜いた。中には日本人男女も2人いた。色々聞いたが総合的には、自分たちは「関東アドベンチャー」という企画のグループでガイドのひげの人は埼玉に「ハイカーズ B&B」という宿泊施設をやっているとのこと（ネット検索するとこのガイドをやっている人はDavidという名前前で日本に10年以上住んでいるよう）。

今回のグループはこれまでに雪山をいくつか登ってきており、今日はその最終登山でガイドの自分は列の最後を歩き、参加者が自分たちで登るという趣旨だそう。

あまりにも日本語が流暢で、英会話の練習のチャンスはなかった。他に沖縄の空軍基地から泊り

できている外国人のグループもいるとのこと。七合の休憩では日本人は私たち3人で、あと9人は外国人で、私たち3人が外国の山にきたようだ。このグループにはタイ人女性もいて、日本人かと思った。一人だけスノーボードを持った人がいたがあとは登山スタイル。



上半身裸のクレージー野郎



関東アドベンチャーの方々

道に雪はあるが、アイゼンなしで登れるのでまだ付けない。まわりの人は少しずつ付け始めていた。先月の青スズ台の時に話題になった「鼻呼吸」を試したらとても楽だった。鼻から吸って口から吐く。しっかり口で吐くと、鼻からしっかり空気が入ってくる。口だけで呼吸すると、少しだけ吸って少しだけ吐くことを繰り返し呼吸が苦しくなるが、鼻から吸うと深呼吸になるのか全く苦しくない。鼻水もでなくてよらしい。

しかし、動いているときは鼻呼吸で楽だが、止まると息が苦しくなった。立ち止まると酸素の薄さを感じるのはなぜだろう。また、時々頭がふらつくので低酸素を感じる。五合目で到着後すぐ出発したので十分な高度順化ができてないのだろう。

10:16 八号の小屋の上のスロープで関東アドベンチャーのグループが尻セード（お尻で滑る）からのピッケルで止まる練習をしていた。私たちの場合は、ピッケルは体にスリングでつないであるので落とすことはないが、彼らはだれもそれをしていない。

もし滑り落ちたら、手から離れて使えないだろう。その後、スパッツ姿のおじさんが登ってきて、宝永火口を見に来たが上を見たら登っている人がいて、登れることを知り登ってきたと言っていた。ピッケルもアイゼンもなしで、靴もまっとうな登山靴ではないので危ない感じがする。（絶対、危険。遭難予備軍。まったくも～、救助隊のことも考えろ！！）

11:15 九合でアイゼンを付ける。背中の荷物が軽くなるのを感じる。すでに肩、背中が荷物の重さで痛くてしょうがない。2本のストックを使って登るので腕も痛い。

加藤さんが間違えてアイゼンを2個持ってきたことに気づく。さらにスキー用アイゼンのクトーやスキーのシールもザックに入っており、後藤さんと私より重い荷物がかついでいたことが判明した。スーパーウーマン加藤さんにはこれくらいのハンデがあっちょうどいい。

頂上の方を見ると、抜いていった人も止まっているように見える。皆、苦しくて少し登っては立ち止まって休んでいる。以前なら、上も下も数珠つなぎで人が線につながって見えたが、今回はコロナのせい、普通の雪山登山に少し多いぐらいだ。

このくらいでよい。つながって見えるほど人がいると、夏の富士登山みたいで辟易する。スキー

をするにも人がいないほうが気持ちいい。この点はコロナのおかげだ。



やはり、富士山は偉大だ

12:15 九合五勺 (3550m) 到着。ここまで、標高差 1180m を約 5 時間 30 分。頂上までは標高差 226m あり、往復 2 時間は必要。登頂しても、頂上直下は雪面の幅が狭く、角度も恐ろしくきつく、アイスバーンと大きな岩がゴロゴロして、私のスキー技術では下りられない。

当初の予定通り、ここで本日の登りは終了。アイゼンを外しスキーの準備をして、少し食べ物を口に入れる。後藤さんはセブンイレブンの「ミニいなりずし 3 個」をお気に召したようだ。スキーヤーとボーダーが滑り下りてきた。後藤さんのスキーがなかなかはまらず、加藤さんも同じ金具なので二人でかなり苦勞して付けた。私のは古いタイプで取り付けは簡単だ。

12:58 にスキー開始 (この時、時計を見たが、この後にも、後藤さんと加藤さんのスキーのセッティングをしていたかもしれない)。

隣の東の沢 (日沢) にトラバースし、滑降開始。最初はボーゲンと斜滑降をこわごわと試し、さあ、スイッチオン。いつもの大ターンに挑戦。斜滑降から遠心力で大きな円弧を描きスピードにのったままターンを繰り返す。

この加速感、遠心力がたまらない。時計を見ると 13:18 であっという間に宝永火口手前まで来た。ここで隣の西の沢に歩いて移るためスキーを外す。沢に出るとスキーを付けて最後の滑降。14:10 スキー終了。板を外してザックに取付け、スキーブーツで歩く。大変歩きにくい。ブーツの中の足はかなり痛くなっている。3 人で足が痛いと言きながら歩く。



K姉御が落ちる

ようやく五合の駐車場に到着。ブーツを脱いで足を開放してやると、この上ない解放感で幸せを感じる。片付けをして、お茶やビールを飲んでまったりと過ごす。御胎内温泉で汗を流す。最後は、長泉に帰り、いつもの下土狩の居酒屋「満貫」で反省会。私は、ここまでビールを飲まなかったので、これまた最高においしいビールだった。

(余談)

・翌日、自宅でスキーの手入れや片づけをしていたら、片方のビンディングのネジが外れており、前の部分がブランブランであった。事前にチェックすべきであった。また、今回改めて知ったことがあった。

スキーブーツで歩くときはウォークモードで足首が自由になるが、スキーモードにすると足首が固定される、というのは知っていたが、足首をかなり前傾させてからカチッというところで切り替えなければいけなかったようだ。

これまで、スキーの時にスキーモードにしていたつもりだったがウォークモードでスキーをしていたようだ。それから、かかとのロックもやり方を反対にしており、スキー中にブーツのかかところが板から離れてスキーの操作が不安定なことが多かった。この3つのミスがなければもっと楽しく最高のスキーができたはずだ。残念。

・女性で登っている人は何人かいたが、皆若いし、ましてやスキーをする人は一人もいない。加藤さんは、女性の富士山スキー最熟齡でギネスブックに掲載ではないか。



### ゴルゴ13が落ちる

・日焼け止め対策をしなかったので、翌日、顔のサングラス以外の部分が真っ赤になりヒリヒリして辛かった。

・私の富士山富士宮口のスキーの過去2回の記録

2012年5月19日 1回目

後藤さんと諏訪部さんと3人。5:50スタート。初めからずっと眠気があり、途中10分睡眠をとった。足が前に進まない。気がのらない。後藤さんとも諏訪部さんとも遅れて休憩しては少しずつ歩いた。

12:10、6時間20分ホウホウの体で登頂。後藤さんから携帯電話かトランシーバですぐスキーを付けて下りてこいとの指示があり、スキーを付けたもののあまりの厳しい斜面の状況に恐れをなし、カニ歩きでスキー板一枚分ずつ下った。

私の技術ではターンはできないので確実に死ぬと思った。14:30ゴール。しかし、この経験は、この後ずっと私の山登りの一番の自慢話となっている。

2014年5月4日 2回目

後藤さんと勝又さん（ツボ足）の3人。6:25スタート。12:00、私は3300mのあたりで時間切れとなりスキー滑降。後藤さんは九合まで。勝又さんは登頂。この日は、五合駐車場まで雪があり、最後までスキーで下りた。

12:50、駐車場までスキーで下りてきたのでギャラリーが「すごい」を連発して気持ちよい。登頂はできてないが。勝又さんは13:50ゴール。それでも2時間弱で下山している。

#### その他の記述（後藤）

1. 富士山山岳スキー「4K」は、私が考えた。が、今回「新4K」を考えた。  
イ. 厳しい    ロ. かったるい    ハ. 勘弁して    ニ. 帰りたい。(´艸`)
2. 外人（表現は、正確でないが）の体温は、一体どうなっているのか。2～3度高い？
3. 積雪量（雪渓）の長さは、ここ数年変わらず、六合五勺までだった。ただ、九合上は、4月の低温の影響か、新雪が30cmほどあった。富士宮頂上鳥居下も例年、岩がかなり露出しているが、今回は真白だった。頂上から快適に滑降するチャンスだった。
4. 今まで滑降時、転倒は殆どなかったが、今回、2回転倒した。ターン時、堪えきれずバランスを崩し転倒する。尻もちを着く程度で問題はないが、これも加齢か。
5. 今回は、新六合に、「当てつけ的なゲート」がなかった。一応、7月の開山日まで登山は禁止。何故か不明。
6. レストハウスが放火でトイレが使えなくなったが、簡易トイレがあった。



K姉御



ゴルゴ13



アルコール（歩恋うる）が落ちる

（了）